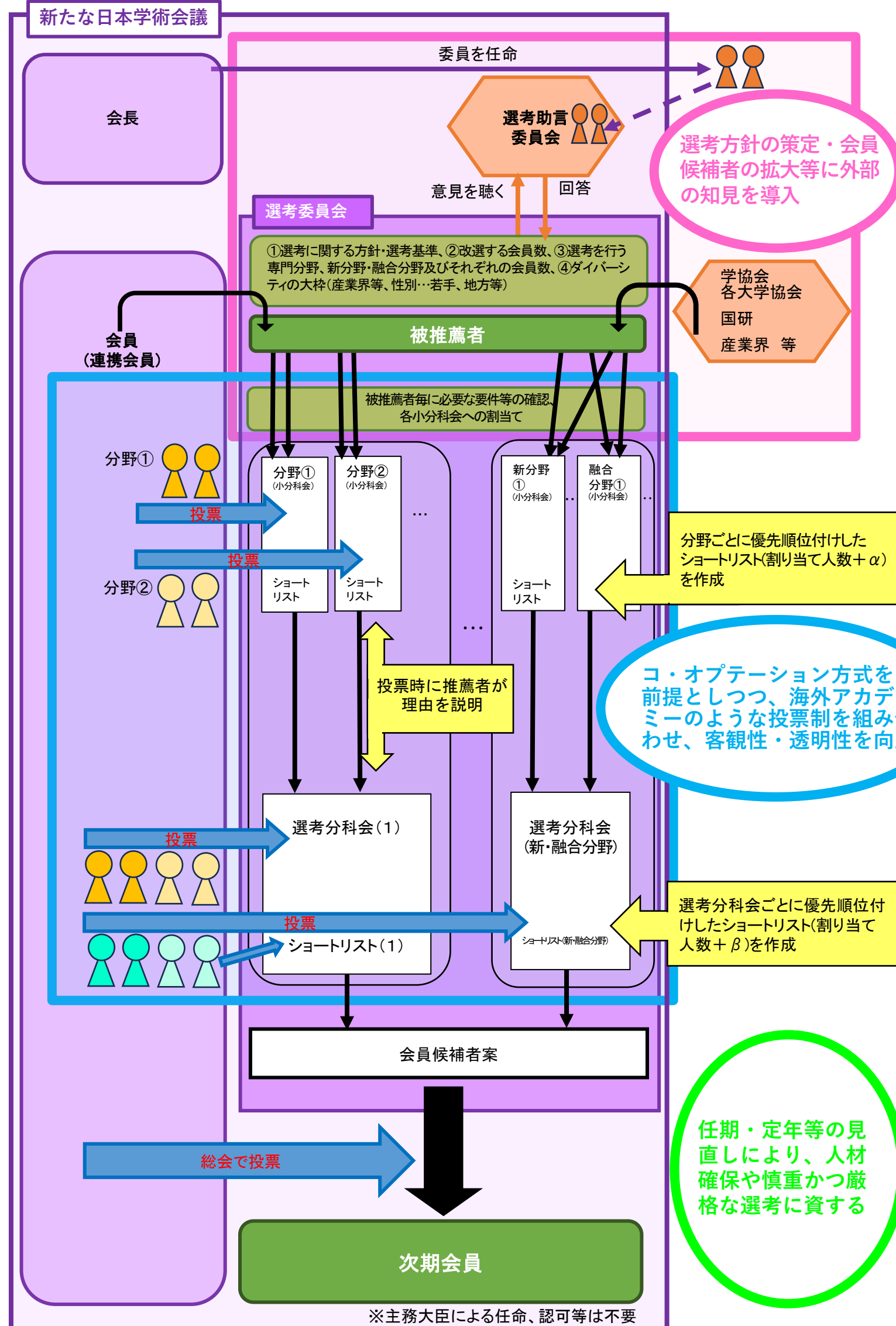


## 会員選考手続きの一例(未定稿)



# 投票制度のイメージ

- 具体的な選考プロセスは、選考助言委員会の意見を聴きながら学術会議が自律的に決定することが適当だが、たとえば次のような大枠については制度的に担保されることが望ましい。
  - ① ダイバーシティの大枠、専門分野の設定及び会員数の配分を内外に説明できる形であらかじめ定めること
  - ② 候補者となる者の裾野を広げるため、会員以外（大学、学協会、国研、産業界等）からの候補者推薦の仕組みを設けること
  - ③ 各専門分野における選考は、少なくとも当該専門分野に所属する会員全員が参加する投票により行うこととし、当該専門分野の定数を超える候補者が順位づけられたショートリストを作成すること
- ※近接する複数の専門分野で合同してショートリストを作成するという運用が現実的であると考えられる。
  - ④ ショートリストをもとに、当該専門分野以外の会員が参加する大分野別又は会員全体での投票を行い、候補者を絞り込むこと
  - ⑤ 上記の投票は、形式的なものではなく実質的な意味のある投票とし、議論の過程や投票結果は関係者において共有されること

※海外アカデミーはいずれも投票制を導入しているが、その態様は多様であり、この図は一つのイメージ